

(参考様式3)

会 議 録

| | | | | | |
|--------------|--|------------------|--|------|----|
| 会議の名称 | 令和2年度第4回東村山市創生総合戦略推進協議会 | | | | |
| 開催日時 | 令和3年1月18日(月)午後6時00分から午後7時20分 | | | | |
| 開催場所 | いきいきプラザ3階 マルチメディアホール | | | | |
| 出席者 及び欠席者 | ●出席者： (委員) 山本尚史会長、山口和歌子副会長、當麻武勇委員、 泉川寛樹委員、榊原弘泰委員、前村敦委員、 溝井裕之委員、村田徹委員 (理事者) 渡部尚市長 (市事務局) 武岡地域創生部長、新井地域創生部次長、柚場シティセ ールズ課長、高橋シティセールス係長、伊澤シティセー ールズ課総合研究業務員 ●欠席者： 三島雄介委員 | | | | |
| 傍聴の可否 | 可 | 傍聴不可の場 合はその理由 | | 傍聴者数 | 1名 |
| 会議次第 | 1 開会 2 市長挨拶 3 議題 (1) 協議事項 ① 東村山市創生総合戦略推進協議会の非常時における運営につ いて ② 「東村山市人口ビジョン(改訂版)・第2期東村山市創生総合 戦略」(案)について 4 その他 5 閉会 | | | | |
| 配布資料 | ・令和2年度第4回東村山市創生総合戦略推進協議会次第 ・【資料1】東村山市創生総合戦略推進協議会内規(案) ・【資料2】東村山市人口ビジョン(改訂版)・第2期東村山市創生総 合戦略(案) | | | | |
| 問い合わせ先 | 地域創生部シティセールス課 担当者名 高橋 電話番号 042-393-5111 内線2922 ファックス番号 042-393-6846 e-mail citysales@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp | | | | |

会 議 経 過

1 開会

(会長)

本日の協議会は、委員 6 名出席。委員数の過半数を満たしているため、東村山市創生総合戦略推進協議会設置規則第 6 条第 2 項の成立条件を満たしている。

平成 28 度の第 1 回協議会において、本会議は原則公開とし、その都度、案件によっては一部非公開とするとした。本日の会議内容においては、非公開とする特段の理由はないと判断されるが、本日の会議は全て公開ということによろしいか。

— 異議なし

(事務局)

本日は、新型コロナウイルス感染症への対策から、傍聴者は別室にご案内することとしている。

(会長)

傍聴を許可する。オンライン会議システムで今から会議を中継する。

— 事務局確認、傍聴者 1 名

2 市長挨拶

(市長)

今年初めての協議会、旧年中は委員の皆様には総合戦略の策定、また、市政全般にわたり、ご指導ご協力をいただき感謝する。昨年末から、新型コロナウイルスが急激に感染拡大し、年明け早々緊急事態宣言が発令された。総合戦略においては、策定の大詰めを迎えており、来月予定しているパブリックコメント前の最後の協議会であるため、緊急事態宣言中ではあるが、書面開催ではなく、対面とオンラインのハイブリッドで開催させていただいた。

このような状況の中、第 4 回東村山市創生総合戦略推進協議会にご出席をいただき感謝する。

2 度目の緊急事態宣言を受けても、感染者数の急激な減少等に至っていない状況である。また、地域経済においては、今回も相当な打撃を被っているのではないかと。現在、市内の事業者について、今後の新型コロナウイルス対策として、市が行う経済対策にどのようなことを望むかという内容のアンケートを実施している。ポストコロナを迎えるためには、市内事業者に頑張ってもらわなければならないと考えている。感染拡大を抑えつつ、地域経済を回していくということは、「言うは易し」で大変なことだが、中長期的な視点を持ちながら、少しでも明るい展望を切り開ければと思う。本日もよろしくお願ひしたい。

3 議題

(会長)

議題（1）協議事項①東村山市創生総合戦略推進協議会の非常時における運営について事務局より説明願ひたい。

(事務局)

- 【資料1】東村山市創生総合戦略推進協議会内規（案）
について事務局より説明

(会長)

本会議の設置規則第10条において、協議会の運営について必要な事項は、会長が協議会に諮って定めることとなっていることから、議題の最初にお諮りする。
ここまでの中で、質問や意見があれば、お願いしたい。

(委員)

オンラインについて、場所の制約を設けなくて良いか。

(事務局)

現在は特に決めていないが、オフィスや自宅が妥当と考える。
全員オンラインということも考えられるが、第一原則は「対面」としていること
をご承知おきいただきたい。

(委員)

直前でのオンライン参加は可能か。

(事務局)

なるべく対応したい。開催通知を発送後、連絡いただければ、事前に導通テスト
等を行うことになる。

(会長)

ほかになければ、本日より施行実施とし、資料1の日付欄箇所、18日と記入
願う。
なお、本日はオンライン会議であれば出席可能という旨の連絡が入っている委員
がいる。
緊急事態宣言下であることから、本規定を適用するという事でよいか。

- 異議なし

(会長)

よって、2名の委員のオンラインでの参加を認め、出席者は8名となる。
次に、議題（1）協議事項②「東村山市人口ビジョン（改訂版）・第2期東村山
市創生総合戦略」（案）について事務局より説明願いたい。

(事務局)

- 【資料2】東村山市人口ビジョン（改訂版）・第2期東村山市創生総合戦略（案）
について事務局より説明

(会長)

ここまでの中で、質問や意見があれば、お願いしたい。

(委員)

P79、東村山市のまちや人の魅力の発信の KPI として Guidoor のアクセス数を設定している。Guidoor を確認したところ、訪日外国人向けのサイトのように感じたが、ターゲットをそこにしているのか。近隣自治体のかたがターゲットではないのか。

(事務局)

こちらのサイトは多言語となっているので、国内外幅広くアクセスを伸ばしたいと考えている。

(委員)

Google 等の検索サイトで「東村山 観光」「東村山 みどころ」で検索しても、Guidoor が検索上位に上がってこないなので、その対策も必要だと感じた。

(委員)

P77、「生きる力」を育む地域に開かれた教育の推進の指標について、「生徒」の年齢は何歳か。

(事務局)

中学3年生である。

(委員)

この年代の親御さんに対するワーク・ライフ・バランスについて、通常であれば、企業が数年かけて準備をしていくものだが、コロナによって急激に状況が変化してしまっている。そのような状況下にいる、思春期を迎えた子どもに対する影響等を把握するために、毎年度調査を行い、目標値を見直していったほうが良いのではないか。

(事務局)

調査は毎年度実施しているので、随時報告する。

(委員)

P85、コロナ禍を乗り越えるための事業継続・回復に向けた支援の指標について、予算規模は上限どのくらいを想定しているか。

(事務局)

予算については、現在最後の調整に入っているところである。この指標については、予算の内容次第で指標自体を変更せざるを得なくなると考えている。

(委員)

P91、地域のくらしの安全・安心の確保の指標が防災から犯罪に変わっているが、災害が抜け落ちてしまったことについて、もう一度説明願いたい。

(事務局)

前回までは、自主防災組織の地域カバー率という指標を設定していたが、実際の事業として、具体的な取組と連動するものがないのではとの意見が所管からあった。

(委員)

具体的な施策に記載されている文章との整合性がないのではないかと感じてしまった。

(事務局)

今回の戦略は1施策1指標で行きたいと考えている。しかし、項目によっては複数の内容を記載しているものがあり、全体的なバランスを考えたいので、犯罪の指標を選択させていただいたこと、ご了承願いたい。

取組については、防災についてもしっかりと取り組んでいく。

(委員)

P81、数値目標について、年齢の表記が変わっているように感じるが。

(事務局)

言葉の表現を変えているだけで、年齢は変更していない。

(委員)

基本的な考え方、数値目標について特に問題ない。コロナ禍の中、流動的に変えていくことは仕方ないことだと感じている。

参考までに、労働の現場で大きく変わったことは、大学生を中心に「働き方改革」ならぬ、「学び方改革」が進んだようだ。時間を持て余している人が多く、アルバイトを掛け持ちしている。そういう若い力をどこかに生かせるような考え方を持ってもよいのではないか。地域・経済の活性化両方に生かせると思う。

コロナの影響が短期的なのか長期的なのかわからないが、それらを加味しながら、目標数値を変えていってもよいのではないか。

(会長)

教育の現場にいても、オンライン授業が進んでいるので学生の時間の使い方が変わったというのは実感している。一方で、コロナが収束したところで、すべてが対面に代わるかといったら、そうでもないように感じる。オンラインはオンラインで、ある程度行ったほうが良いのではという意見が出ている。

現在、コロナ禍だから、学校・アルバイトのほかに時間があるというのはあるが、ポストコロナにおいて、今までとは違う生活スタイルに変わっていくと思う。

どう変わるかはわからないが、逆に言えば「早い者勝ち」、「声をかけたもの勝ち」という感じになるのではないだろうか。

とは言え、計画に記載できるものではないので、状況を敏感に察知しながら事業を進めていくということになるであろう。

(委員)

そういう意味でも、流動的に変えてもよいのではと思う。

(市長)

民間企業の働き方改革で、兼業を認める動きがある。公務員については、今のところ兼業は認められていないが、兼業を認められている民間企業の人材を公共団体が雇用するという動きが出てくると思う。ICT・マーケティング等の専門的な技能を

持っている方を各自治体が確保できていない状況があるため、こういう分野で特に考えられる。官民の人事交流は今後進むのではないか。テレワークで余った時間を自治体で働いていただくこと等も視野に入れながら、地域活性、地域雇用を考えていく必要があると考えている。

(委員)

コロナ禍で住宅需要に変化があり、郊外の住宅の販売件数が増えてきているという実態がある。東村山の魅力として、都心に近いベッドタウンという位置づけがあり、食と農という特長を生かしながら住民に対するのサービスを行っていくということで、この環境の中でこれらを生かした形で人口増・女性に優しい地域づくりにうまく絡められないか。個別の KPI をうまくストーリーづけてアピールできれば人口増につながっていくのではないか。

(会長)

これまで市の魅力を伝えようとした場合、東村山市に関心のある人にどこかに集まってもらって説明するということがあったが、オンラインがコミュニケーションの中心になると、必ずしも必要ではなくなる。

タウンミーティングに他市の人に傍聴してもらおう等色々な形ができ、新しいつながりを作り、東村山の付加価値を生むことができると思う。

新しいことにチャレンジしていけるような人口ビジョン・第2期総合戦略になるようにしたいと思う。

(委員)

内容については、指標を補完できるような事業を掲載していただければと思う。

市民への見せ方について、ホームページや図書館等に設置した際のビジュアルを意識していただきたい。また、子ども向けに、学校等で先生方が自分たちの市のことを伝えるための資料になればよいと思う。

(事務局)

今回、完成版はお示しできていないが、目次の前に東村山市の統計データ等をビジュアル的に見せるページを挿入して見やすい形にしたいと考えている。

また、教育現場でというお話があったが、シティプロモーション事業として、出前講座を学校で実施したいと考えている。その時には、今後作成予定の概要版を用いて、小中学生に郷土愛を育むような事業を行いたいと考えている。

(副会長)

コラムのページが見受けられるが、ここに記載する内容を、子どもでも読めるような柔らかい内容にしていくとよいのではないか。

P93 の新たな移動手段について、指標等については、このままでよいと思うが、コラムの部分で、コロナ禍で運動不足なため、おすすめの歩道や季節ごとのコース等を記載することなどが考えられる。そうすることによって、冊子の雰囲気が変わっていくのではないか。コラムの内容はほぼ確定しているのか。

(事務局)

まだ調整中である。現在検討している案は、行政が一方向的に伝えるものではなく、

市民の方にも一緒に取り組んでほしいという思いがあり、市民の方へのメッセージになるような内容を検討している。

(委員)

以前、渋滞削減のために、サイクリング道路整備事業が東京都であったと思う。歩道・サイクリング道路の整備で渋滞解消、明るく開かれた道路に整備することで、防犯にもメリットがあるのではないかと思った。

(会長)

市内の道路情報については、総合戦略に限らず行っているので、発信力を高めることが、一つのチャンスではないか。

(委員)

人口ビジョンについて、P31 で人口の流出入について近隣市間の移動が多いとの記載がある。所沢市や小平市との間で転出入が多い理由は、特急の停車が大いに関係していると考えられる。転入転出の明確な理由が出ているのであれば、容積率の緩和などを材料に、特急停車への鉄道会社との要望につなげることができるのではないか。

(事務局)

用途地域については、地方自治体が独自に変更できるものではない。面的整備と言って、周辺地域住民が動けば可能であるが、市町村がハンドリングすることは難しい。

都市計画道路周辺においても、住民への理解等ハードルが高い現状がある。

(委員)

歩道の整備というと堅苦しくなるが、歩きやすい、歩いていて楽しくなる歩道、安全を担保したうえで、アトラクショナルな整備があれば面白いかと思う。単純な整備は、どこの自治体でもやっているのもので特色が欲しい。

(市長)

総合戦略の性格上、ハード系のまちづくりについては、ほとんど触れていない。同時並行で策定している「総合計画」及び「都市計画マスタープラン」等については、歩道の整備や都市計画道路の整備等についての記載をしている。

ハードをどのように生かして市内を周遊できるようにするか、市内で買い物をできるようにしていくかということについては、どの計画というわけではなく、より掘り下げて考えていく必要があると思う。

少しずつではあるが、市内のハード整備は進んでいくので、いかに地域経済の活性化、人の活力につなげていくかということを検討していきたい。

総合戦略は、ソフト事業中心であることがうたい文句になっているため、ハード整備についての記載がないが、その他の計画と合わせながら、ハード・ソフト事業共に進めていきたい。

(会長)

ハード面が整備されたとして、それが市民の生活にどういう見え方、意味を持つ

てくるのかということが、総合戦略の工夫であると思う。

(委員)

市内の転入転出について、私も気になっていた部分ではある。住宅価格が影響していると思うが、これまで、買える人は練馬等に住宅を購入し、そうでない人が東村山を選んでいったと思う。

しかし、東村山は住宅地域として魅力ある場所であることは間違いないので、所得の高い人が、リーズナブルな家を買って、余力資金を別の形で市内循環させるようになるとういのではないかと。魅力ある住宅地をいかに提供できるか。生産緑地を今後も農地として活用していきたい等の話もあったので、農業への関心が高まっている今、住宅地と市民農園等をセットにしてPRしていく等、東村山の魅力をアピールすることによって、市にお金を落としてもらえる仕組みづくりが大切ではないかと思った。

(委員)

P59の人口の将来展望について、外国人の流入についても記載するべきではないかと思う。

(会長)

外国人に限らず、住民の多様性についても触れることができるのではないかと。検討していただければと思う。

4. その他

(事務局)

1点、今後の完成までのスケジュールである。

今回の協議結果及び庁内での最終調整を踏まえて修正した案に基づき、2月10日から3月1日までパブリックコメントを実施する。パブリックコメントでいただいた意見への対応等を行った上で、3月末、正式完成とする。委員の皆さまには、次年度、4月以降に、完成した冊子を送付する。

今後の最終調整において、変更が出た点については、会長と事務局にて調整させていただきたい。

—意見・異論なし—

5. 閉会 武岡地域創生部長 挨拶

以上—